



Title	スワヒリ&アフリカ研究 第37号 編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2026, 37
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104458
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

❧ 編集後記 ❧

本誌 37 号は、13 本の論考を掲載した大部の号となりました。前号の 36 号では、9 本の論考を掲載できたことを喜んでいましたが、それを上回る投稿が寄せられ、嬉しい悲鳴をあげています。今号は、大学院生からの投稿が多かったのもその要因の一つです。我が大学院の博士課程の松岡氏のガーナのハウサ語についての論考、修士課程の山本氏、鈴木氏のスワヒリ語についての論考、そして、スワヒリ語専攻から京大の大学院に進んだ島田氏のナイロビのジュア・カリについての論考と、若い世代が育ってくれていることを嬉しく思っています。また、大阪外大時代の修士課程を卒業した中川氏が修士論文の改訂版を寄稿してくれました。ケニアのギクユ人作家であり、またスワヒリ語専攻の「祖」の一人である宮本正興先生の盟友でもあったグギ・ワ・ジオンゴ氏が、昨年 2025 年に亡くなったことを追悼する意味でも、中川氏の論考を掲載できたことは意義深いことだと思っています。

また、アフリカ研究界の「レジェンド」、砂野先生、梶先生にもご投稿いただき、ありがたいことです。他にも今号では、ケニアの若年労働者への聞き取り調査の結果や、セネガルでの図書館活動について、また、タンザニアのシーア派の人々についての歴史的、全体的な概説、昨年 8 月に開催された TICAD に誰が来ていたか、など大変興味深い論考をいただきました。8 年間続いてきた井戸根氏によるラム女性 E 氏のライフヒストリーも、今号で一段落とのこと。皆さま方には、弊誌を論考公開の場として選んでいただいたこと、あらためて感謝申し上げます。

ちょうどこの後記を書いている時に、アメリカのイラン攻撃が始まりました。湾岸諸国にも戦火がおよび、身近なところでは、アフリカやヨーロッパに行こうとする、あるいは帰ってこようとする人たちが、中継地のドバイやドーハを経由できなくなり、混乱が起きました。世界にまた、あらたな「戦争状態」が生じてしまい、世界の戦火は消えるどころか、ますます広がる一方です。日本も無関係ではいられず、また重要な役割を担っていかなければなりません。これまでの戦争の歴史から学んできたことをよく見つめ、誤った道を選ぶことなく進んでほしいと願います。アフリカの歴史、政治、文化から学ぶ私たちも、より一層広い視野から、この状況を注視し、考えていかなければならないと思います。

本誌が、アフリカ研究を志す人々の発信と交流の場として機能し、役立つことができれば幸いです。今後とも弊誌の活動に、変わらぬご支援、ご投稿のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(2026 年 3 月 3 日 K)

投稿・問い合わせアドレス： swahiliandafrica@gmail.com

大阪大学機関リポジトリ OUKA (Osaka University Knowledge Archive) にて公開中

2026 年 3 月 20 日発行

スワヒリ & アフリカ研究 第 37 号

発行 大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻 スワヒリ語研究室

〒562-8678 大阪府箕面市船場東 3-5-10

編集 小森淳子、竹村景子、宮崎久美子

印刷 株式会社シンメイ社 〒544-0034 大阪市生野区桃谷 5-11-23

ISSN 0915-8758